

パネリスト紹介



Katrina WUEST (ドイツ)

1970年代から1980年代にかけて、馬場馬術ナショナルチームメンバーとして活躍。現役時代は多くの馬を調教し、国際競技会において数々の成功を収めた。選手引退後は審判員としての活動を始め、1994年に国際審判員に昇格、2006年にはFEI5*審判員となり、ワールドカップファイナル大会や選手権大会などをはじめ、数々の国際競技会の審判員を務めている。2009年から2年間、FEI馬場馬術タスクフォースメンバーの一員として、0.5採点やJSP制度導入などに貢献。近年は、FEI自由演技課目の審査方法見直しのワーキンググループの中心人物として尽力している。3人の子供の母でもある。



Liselotte FORE (アメリカ)

馬場馬術選手として活躍後、1972年よりグランプリレベルのトレーナー業を始める。その傍ら、約25年に亘って、スポーツホースのブリーダーとしても活動し、生産した6頭の種牡馬はアメリカ・カナダで数多くチャンピオン馬を輩出。この他、選手権大会レベルで活躍できる選手と馬の強化・育成に貢献。地元カリフォルニアには、自身の馬場馬術トレーニング施設を所有している。1990年より国際審判員としてのキャリアをスタートし、数々の国際競技会や代表選考会の審判員を務め、2013年にはFEI5*審判員へ昇格。本年ノルマンディー世界選手権の審判団の一人。



Susan HOEVENAARSE (オーストラリア)

6歳から乗馬をはじめ、父親から譲られた元競走馬の馬場馬に出会った時から、馬場馬術選手としてのキャリアをスタート。グランプリレベルにまで上りつめ、オーストラリア代表選手として国際競技会に5回出場。結婚後は、ホースマンであったご主人と共に若馬の生産に取り組む。現在は、FEI5*審判員として、特にヨーロッパで開催の国際競技会の審判員として活躍。2013年のヨーロッパ選手権では、唯一ヨーロッパ国籍でない審判員として名を連ねた。本国では、CDIの主催者としても活動している。本年ノルマンディー世界選手権の審判団の一人。